

# 関西大学大学院会計研究科 入学試験問題

2007 年度一般入試（10 月募集）学力重視方式（A）

## 【計算科目】

簿記・原価計算・統計学

## 【理論科目】

財務会計・管理会計・監査・  
企業法・経済学・経営学

### 受験上の注意事項

1. 監督者の指示があるまで、この問題用紙を開くことはできません。
2. 試験場においては、すべて監督者の指示に従ってください。
3. 出願時に届け出た受験型に従って2科目選択し、解答してください。試験当日の変更はできません。  
計算重視型 → 計算科目から2科目選択  
理論重視型 → 理論科目から2科目選択  
均等型 → 計算科目および理論科目群からそれぞれ1科目選択
4. 問題は 18 ページまであります。
5. 試験時間は 120 分です。  
試験開始から終了までの間、試験教室からの途中退出はできません。
6. 机上には受験票、筆記用具、時計（計時機能のみのもの）、電卓（計算機能のみのもの）以外のものは置かないでください。
7. 時計のアラームは解除し、また、携帯電話、PHS等は必ず電源を切ってかばんにしまってください。
8. 不正行為を行った者は試験を無効とします。

# 計 算 科 目

簿 記

原価計算

統 計 学

# 簿記

---

## 問題 1

以下の（1）から（4）の一連の取引につきA社の仕訳をしなさい。

（1）A社は、当期首に保有する下記の有価証券に係る洗替処理を行った。

銘柄	保有目的	株数	取得原価（1株）	前期末時価（1株）
X社株式	売買	3	100円	106円
Y社株式	売買	2	300円	290円

（2）A社は、当期首に、満期まで保有する目的で、3年もの国債400円を100円につき94円で購入した。この場合の債券金額と取得価額との差額は金利調整によるものである。なお、購入代金は現金で支払った。

（3）A社は、期中に、X社株式2株を1株につき103円で売却した。なお、売却代金は当座預金に振り込まれた。

（4）A社は、決算にあたり、有価証券の評価を行った。X社株式の時価は1株99円、Y社株式の時価は1株307円であった。国債の時価は100円につき97円である。

## 問題 2

次の資料に基づき、後の問い（1）から（4）に答えよ。

### 【資料】

		代替的処理法				
備品の減価償却	取得原価 100,000 円、残存価額は 10,000 円、耐用年数 8 年。	定額法（償却率 0.125） 定率法（償却率 0.250）				
国債の期末評価	取得原価 100,000 円。期末時価 98,500 円。	原価法 時価法				
商品の期末評価		受入		払出		先入先出法 総平均法
		受入 （個）	単価 （円）	払出 （個）	単価 （円）	
	期首	100	100			
	上期	400	110	400	？	
	下期	500	120	450	？	
期末			150	？		

### 【問い】

解答にあたっては代替的処理法が現行会計基準に違反するか否かは考えなくてよい。また、前期に採用していたであろう会計処理法からの変更が継続性の原則に違反するかどうかも考えなくてよい。なお、前期までに備品の減価償却は丸 3 年分すすんでいる。

これら 3 つの会計処理を含まない段階での利益は 195,000 円である。また、前期の純利益は 87,000 円であった。計算途中で端数が生じる場合は円未満四捨五入せよ。

- （1）当期における備品の減価償却費につき定率法を用いて求めよ。
- （2）当期の純利益が最小になるような代替的処理法の組み合わせにおけるこれら 3 つの費用の総額を求めなさい。
- （3）当期の純利益が最大になるような代替的処理法の組み合わせにおけるこれら 3 つの費用の総額を求めなさい。
- （4）前期の純利益からの乖離が最も小さくなるような代替的処理法の組み合わせから得られる当期純利益の金額を求めなさい。

### 問題 3

次の資料に基づいて、問 1 及び問 2 に答えなさい。

#### 【資料】

当店の決算日（平成×年 3 月 31 日）現在の当座預金勘定の残高は 329,000 円であったが、その金額は、銀行から受け取った残高証明書の残高と異なっていた。銀行勘定調整表を作成して不一致の原因を調査したところ、次の事実が判明した。

- (1) 決算日に現金 140,000 円を当座預金口座に振り込んだが、銀行ではそれを翌日付で預け入れ記入していた。
- (2) 小切手 92,000 円を振り出して買掛金を支払ったが、決算日現在で銀行に未呈示であった。
- (3) 手数料 70,000 円の入金を 7,000 円と誤って記帳していた。
- (4) 賃借料 48,000 円が当座預金口座から自動引き落としされていたが、決算日までに通知が届いていなかったため、記帳していなかった。

問 1 資料の (1) から (4) について、決算時に必要な修正仕訳を示しなさい。仕訳が不要な場合は「仕訳なし」と記入すること。

問 2 以下の銀行勘定調整表の①から④に入る金額を答えなさい。

銀行勘定調整表	
平成×年 3 月 31 日	
(単位：円)	
銀行残高証明書の残高	①
(加算)	
	②
(減算)	
	③
当座預金勘定の残高	④

#### 問題 4

以下の資料に基づき精算表の必要な箇所の数値を記入しなさい。

#### 【資料】

- (1) 現金過不足勘定で処理されている現金¥750 は、調査の結果、現金売上の記入漏れによるものであることが判明した。
- (2) 割引手形のうち¥150,000 は、既に満期日において決済されていたものが未処理であった。
- (3) 建設仮勘定の残高は、既に完成し使用に供されているものに相当するが、未処理であった。

精算表  
平成×年 3 月 31 日 (単位：円)

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
...	...	...	...	...	...	...	...	...
現金過不足		750						
受取手形	960,000							
割引手形		150,000						
...	...	...	...	...	...	...	...	...
建設仮勘定	750,000							
...	...	...	...	...	...	...	...	...
建 物	1,500,000							
...	...	...	...	...	...	...	...	...
売 上		126,000						

# 原価計算

問題1 以下の資料に従い、完成品原価および期末仕掛品原価を材料費と加工費の内訳を含めて示しなさい。

資料1 原価計算の方法

材料Aは工程の始点で材料が投入され、材料Bは工程の50%時点で投入される。

製品製造における加工は、製造工程で順次平均的に行われる。

単純総合原価計算（総平均法）が採用されている。

計算過程で小数点が発生した場合、小数点以下第2位で四捨五入している。

資料2 製造の状況

完成品 1,800 個、期末仕掛品 200 個（加工進捗度 60%）、期首仕掛品 150 個（加工進捗度 40%）

資料3 投入された費用

当期投入材料費 14,985,000 円（うち材料A 9,435,000 円、材料B 5,550,000 円）

当期投入加工費 13,020,000 円

期首仕掛品原価のうち 材料費 750,000 円 加工費 408,000 円

問題2 当工場では、A製造部門、B製造部門、倉庫部門、事務部門に分かれている。製造間接費は、直接配賦（倉庫部門製造間接費の変動費は材料投入額で、倉庫部門製造間接費の固定費は平均在庫量で、事務部門製造間接費は従業員数で配賦）を行っている。資料に従い、A製造部門とB製造部門の製造間接費を計算しなさい。

資料

	A 製造部門	B 製造部門	倉庫部門	事務部門
製造間接費	4,432,000 円	5,654,000 円	1,900,000 円	792,000 円
（うち変動費）	—	—	700,000 円	—
（うち固定費）	—	—	1,200,000 円	—
材料投入額	6,540,000 円	13,460,000 円	—	—
平均在庫量	1,150 個	350 個	—	—
従業員数	460 名	420 名	10 名	10 名

問題3 当工場では標準原価計算制度を導入して、製品αを製造している。以下の資料に従い、完成品標準原価、期末仕掛品標準原価、材料費差異、価格差異、数量差異を示しなさい。

資料1 製品αの製造

製品αの製造では、材料が始点で投入され、平均的に加工される。

資料2 製品αの原価標準

製品αの原価標準 20,000円

材料費 10,000円 (= @400円×25kg)

労務費 5,000円 (= @1,000円×5時間)

間接費 5,000円 (= @1,250円×4時間)

資料3 当月の製品αの製造結果

完成品 1,000個 期首仕掛品 0個 (加工進捗度 0%), 期末仕掛品 200個 (加工進捗度 50%)

資料4 当月の材料投入額

材料投入額 12,678,250円 (30,550kg)

問題4 製品Aと製品Bは連産品である。連結原価 4,440,000円 のとき、以下の資料を基に各連産品に按分しなさい

なお、答案用紙には、計算過程を明示すること

	製品A	製品B
生産量	5,500Kg	3,500Kg
正常市価	600円/Kg	500円/Kg
分離点後正常加工費	200円/Kg	150円/Kg

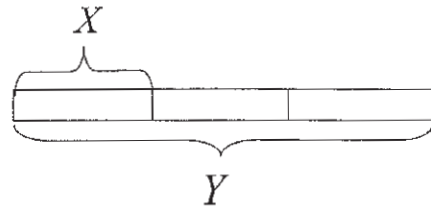


# 統計学

---

## 問題 1

ある部品の長さ  $X$  は正規分布  $N(10, 1)$  に従っている。多数の部品から無作為に 3 つ選んで図のように接着して連結する。連結したものの全体の長さを  $Y$  とするとき（接着部の長さは無視できる）、次の問いに答えよ。



- (1)  $Y$  の分布を求めよ。
- (2)  $Y$  が 26 以上となる確率を求めよ。

## 問題 2

病気 A の罹患率は 0.01 である。この病気に対して検査法 B を適用すると、病人に対しては確率 0.9 で陽性反応を示す。また、正常人に対しても確率 0.05 で陽性反応を示す。ある人が検査法 B を受けたところ、陽性であった。この人が実際に病気 A にかかっている確率を求めよ。

## 問題 3

関数  $f(x)$  は、 $0 \leq x \leq 1$  のとき  $ax$ 、 $1 \leq x \leq 2$  のとき  $a(2-x)$ 、 $x < 0$  または  $x > 2$  のとき 0 を値としてとる。このとき  $f(x)$  が確率密度関数であるためには、 $a$  の値はいくらである必要があるか。

## 問題 4

変数  $x, y$  に関する 10 組のデータに関して統計量を計算したところ、

$$\bar{x} = 5.5, \bar{y} = 7.7, \sum_{i=1}^{10} (x_i - \bar{x})^2 = 82.5, \sum_{i=1}^{10} (y_i - \bar{y})^2 = 86.1,$$

$$\sum_{i=1}^{10} (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) = 82.5$$

を得た。以下の問いに答えよ。

- (1) 最小 2 乗法により推定して求めた回帰式  $\hat{y} = a + bx$  の  $a$  と  $b$  の値はいくらになるか。
- (2) 変数  $x, y$  の相関係数  $r$  を求めよ。
- (3) 決定係数（寄与率） $R^2$  を求めよ。

# 理論科目

財務會計

管理會計

監 查

企 業 法

經 濟 学

經 營 学

# 財務会計

---

## 問題 1

企業会計原則が一般原則で定めている「企業会計は、企業の財政状態および経営成績に関して、真実な報告を提供するものでなければならない。」について、下記の問題に答えなさい。

問 1 この原則の名称は何ですか。

問 2 報告が真実であるための条件を示しなさい。

問 3 この原則と他の一般原則との関係を説明しなさい。

問 4 この原則に抵触した会計を何と言いますか。

## 問題 2

次の【資料】は、企業会計原則の注解 1 の一部を抜粋したものである。これに関連して、以下の問に答えなさい。

### 【資料】

企業会計は、を行うべきものであるが、企業会計が目的とするところは、企業の財務内容を明らかにし、ことにあるから、重要性の乏しいものについては、ことも (ア) 正規の簿記の原則に従った処理として認められる。

問 1 【資料】の原則の名称を答えなさい。

問 2 【資料】の空欄 (A, B, C) に入る文章を 20 字以上 30 字以内で答えなさい。字数を明記すること (句読点は文字数に含めない)。

問 3 次の①から④について、【資料】の原則に従った処理方法を示しなさい。

- ① 消耗品のうち、重要性の乏しいもの
- ② 経過勘定項目のうち、重要性の乏しいもの
- ③ 引当金のうち、重要性の乏しいもの
- ④ たな卸資産の購入に要した付随費用のうち、重要性の乏しいもの

問 4 下線 (ア) の原則に適合する会計記録を行うための要件を 3 つ挙げなさい。

# 管理会計

---

問題 1：次の一連の問に答えなさい。

問 1：次の用語を 30 字程度で説明しなさい。

- ①：予算ゲーム
- ②：サプライチェーン・マネジメント
- ③：経営レバレッジ係数
- ④：正味現在価値法
- ⑤：ABC
- ⑥：TOC

問 2：次の文章を基に、各設問に答えなさい。

文章：

関大工業では、個別原価計算の部門別計算において、補助部門費を製造部門に配賦する場合に、各補助部門の「実際発生額」を基礎としていた。しかし、これについては、各製造部門から不満が起こっている。こうした不満を解決するために、会計担当者は「正常配賦額」と「予算許容額」のいずれかを基礎とすることを企画している。

設問 1：各製造部門でどのような不満が起こっているのかを記述しなさい。なお、解答においては次の用語を全て利用し、利用した用語には下線を引くこと。

用語：操業度差異、予算差異

設問 2：あなたは「正常配賦額」と「予算許容額」のいずれを基礎とすべきであると考えますか。基礎とすべき金額を明記し、その理由を記述しなさい。なお、解答においては次の用語を全て利用し、利用した用語には下線を引くこと。

用語：操業度差異、予算差異

設問 3：「単一基準配賦法」と「複数基準配賦法」について説明しなさい。

問題2 直接原価計算について、以下の設問に答えなさい

設問1 変動費と固定費について、簡単に説明しなさい

設問2 棚卸資産の原価について、直接原価計算を採用した場合の適否を理由とともに述べなさい

設問3 損益分岐点分析との関係を説明しなさい。

# 監査

---

## 問題 1

以下の監査基準の第四 報告基準に規定された標準的な監査意見について、以下の問いに答えなさい。

監査人は、経営者の作成した財務諸表が、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、企業の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示していると認められると判断したときは、その旨の意見を表明しなければならない。

### [問 1]

上記基準が規定する標準的な監査意見について、具体的にどのように称するかを解答しなさい。

### [問 2]

上記基準が規定する監査意見が、なぜ標準的な監査意見とされるのかについて、その理由を述べなさい。

### [問 3]

上記基準の規定する標準的な監査意見が表明できない場合を説明しなさい。表明できない場合が複数想定できる場合は、それぞれに分けて解答しなさい。

## 問題 2

以下の文章は、監査基準の意義について述べたものである。下記の設問に答えなさい。

監査基準とは、監査実務の中に慣習として発達したもののなかから、一般に公正妥当と認められたところを機能要約した原則であって、職業的監査人が、財務諸表の監査を行うに当たり、法令によって強制されなくても、常にこれを遵守しなければならないものである。

### [問 1]

上記で言う監査基準に必要とされる特徴を列挙し、それぞれを説明しなさい。解答に当たってはそれぞれの特徴が判るように区分して解答すること。

### [問 2]

このような監査基準を設定しなければならない必要性について、(1)監査人の立場と(2)投資者の立場で論証しなさい。解答に当たっては、それぞれの立場が判るように区分して解答すること。



# 企業法

---

## 問題 1

株主平等の原則について述べなさい。

## 問題 2

取締役の利益相反取引規制について説明しなさい。

# 経済学

---

次の2つの問題に答えなさい。

1. マクロ経済が次のモデルで表されたとする。この、以下の設問に答えなさい。

$$\begin{aligned} Y &= C + I + G \\ C &= 0.6 \cdot (Y - T) + 46 \\ T &= 0.3 \cdot Y + 10 \\ I &= 112 \\ G &= 80 \end{aligned}$$

ここで、 $Y$ 、 $C$ 、 $I$ 、 $G$ 、 $T$  は、それぞれ国民所得、民間消費、民間投資、政府支出、租税である。そして、限界消費性向は0.6、限界税率は0.3、基礎消費は46兆円、民間投資は112兆円、政府支出は80兆円とする。

- (1) 均衡の国民所得を求めなさい。
- (2) 投資乗数を求めなさい（小数の場合は、小数点以下第二位のを四捨五入しなさい）。
- (3) この時、政府財政は黒字か、赤字か、均衡しているか、を論証しなさい。
- (4) この時、民間の貯蓄額はいくらになるか？
- (5) 政府が景気政策で10兆円を減税した時に、国民所得はどれだけ増加するか？但し、1兆円以下は四捨五入しなさい。
- (6) 政府が景気政策で公共投資を10兆円増加させた、国民所得はどれだけ増加するか？但し、1兆円以下は四捨五入しなさい。

2. 生産の理論に関する次の問いに答えなさい。

- (1) 総費用が固定費用と可変費用の和である時、平均費用曲線、平均可変費用曲線、限界費用曲線を同じ図上に描くと、(イ) 平均可変費用曲線は平均費用曲線を超えることはないこと、(ロ) 平均費用曲線と平均可変費用曲線の最低点で限界費用曲線と交わることを証明しなさい。
- (2) 生産要素が資本と労働のコブ・ダグラス型の生産関数において、(イ) 労働の限界生産力を求めなさい。(ロ) また、規模に関して収穫一定とはどのようなことを意味しているか説明しなさい。

# 経営学

---

## 問題 1

企業の本質とは何かということに関する議論には諸説がある。株式会社形態の企業に焦点を当て、以下に示す視点を取り入れて企業という存在を説明しなさい。

- ① 資金の調達方法
- ② 企業の所有者はだれか
- ③ 企業経営に関する主権のあり方について

## 問題 2

多くの企業ではその成長に伴い、単一の事業構造から複数の事業を手掛ける多角化した事業構造を持つようになる。このような事業構造の変化が起きる要因について説明しなさい。